ボランティアと言っても、幅広い分野にさまざまなレベルの活動があり、一つの概念で定義するのは難しい。ボランティアは無料奉仕が当然という風潮がまだまだ根強いが、本当にそうだろうか。

例えば日曜日の公園の清掃などは、自分の気が向いたときに行うことができるし、都合が悪ければ延ばすこともできる。AMDAのように緊急救援活動や在日外国人のための医療情報提供活動を行うには、こうはいかない。

まず運営のためのオフィスとオフィスをきりもりする事務局スタッフが必要である。

毎日一定の仕事をこなさなければならない。今日は時間があるから来るが明日は来られない、という人ばかりでは活動できないのだ。

大切な自助努力

従って、事務局の中心的スタッフは有給雇用でなくてはならない。私たちの場合、無給でもよいからこのような仕事に携わりたいという人を、決して満足とは言えない金額だが有給雇用し、生活面での不安なく活動に邁進していただいている。

これらの有給スタッフが芯となり、そのまわりに無給でもいいから自分の空いた時間に活動にかかわりたいという人がいて、初めて我々のような活動の組織的骨組みができる。

AMDAやAMDA国際医療情報センターの活動にかかわりあってからというもの、常に資金集めに奔走してきた。

ふんぞりかえってろくな返事をしない人や、さっさと帰れという態度の人まで、いろいろな人とお会いした。

これは日頃医師という他人様から頭を下げられやすい立場の私にとって貴重な反面教師的体験であった。ボランティア活動という美しい仕事をしているのだから、寄付金をくれるのは当然といった態度は傲慢である。

自助努力の姿勢が何より大切なのだ。寄付金も大歓迎だが、出版物を販売し、機関誌への広告を取り、税金を支払ってがんばっている。

（小林　米幸＝AMDA・アジア医師連絡協議会日本副代表）